

*Master Course! Simultaneous
Interpreting by Whispering*

【マスターコース】

ウイスキー パッシング 同時通訳

メモリー&スプリット・アテンション演習

柴田バネッサ清美
日高恭子

下記のサイトから附属音声を無料ダウンロードできます

Nan'un-Do's STORE
<https://nanundo.stores.jp/>

南雲堂

謝辞

2009年の4月、私は通訳者の親友とともに柴田バネッサ清美先生の門下生になりました。高校教諭から転職して2年。当時、社内で通訳をしていた私は、世界各地から訪問する方たちの種々様々な強い癖のある英語にびくびくしていました。「プロがこれでは商売にならぬのではないか？」

柴田先生の授業では、カラフルな英語で話されるあらゆる分野の題材が数多く提示され、時には少々苦しいこともありましたが、少しずつできるようになる喜びを感じながら、鍛えていただいたと思います。

その後、たくさんのご縁を得て、都内各所の学校で通訳を教えるようになりました。そして、この本の執筆について、柴田先生からの嬉しくも光栄なお誘いがありました。

私が書かせていただいた部分には、授業で学んだこと、通訳や通訳講師、審査会の仕事を通して得たものたちが盛り込まれています。通訳者、全国通訳案内士の皆様、通訳を学ぶ方たちとはもちろん、日々、日本のために、世界のために奮闘している政府省庁や国際機関の職員の方たちとも分かち合えたらとても幸せです。

またこの本の執筆にあたり、米国ホワイトハウスの通訳者として長きに渡って活躍された Harry Obst 先生より、筆者たちへ力強い励ましと読者へ温かい言葉を受けたことは、本当に嬉しいことでした。

そしてこの場をお借りし、常に大きなお気持ちで導いてくださった柴田先生に心から感謝を申し上げます。支えてくださったすべての皆様、夫 日高敏之にも。また誰より「柴田先生の講座を受けに行こう！」とあの日、強く誘ってくれた我が友、通訳者中田桃子さんに……。

また末筆にはなりましたが、南雲堂のご担当伊藤宏実さんにも出版にあたり、ご尽力いただきましたことに御礼を申し上げます。

どうもありがとうございました。

日高 恭子

はじめに

未来の通訳者を養成するには心理言語学的なトレーニングが必要です。それは、訓練のほとんどが学習者の自主的な学習によるものであり、インストラクターは、各学習者のニーズに従ってガイドラインや演習を指示していかねばならないからです。そして、手ほどきから順次段階を追って、どのように話の内容をインプットし保持するかを示していきます。これにより、学習者は個人個人で到達目標を設定し、各自が自分のペースで技能を磨くことが可能になります。

本書では特に、通訳者が最も必要とする、聞きながら分析し、訳し、保持する複数の異作業を同時に行うための技能訓練と記憶トレーニング法を紹介します。これらは古今東西スパイの養成訓練にも使われてきたもので、日々の練習を続けられる人には、非常に効果があることが実証されています。

スパイは見聞きしたものを即座に記憶し、保持し、正確に報告しなければなりません。通訳者の仕事も同様です。即座に記憶し、正確に、忠実に、わかりやすく、しかも聴衆を待たせないで内容を伝えるということが加わります。

話の内容を変えずに、いかに短くまとめ上げて伝えるか、その時間との勝負に勝つためには地道な訓練が一番です。しかし、それは闇雲に行うと、成果を出すのに時間がかかってしまいます。そこで、学習者は、インストラクターまたは通訳の何たるかを知ったメンターに、各自のパフォーマンスをチェックしてもらいコースを修正していきます。通訳トレーニングの主眼は、練習して仕上がったものを聞いてもらうことにあり、教室で何かを教えてもらうことではないのです。

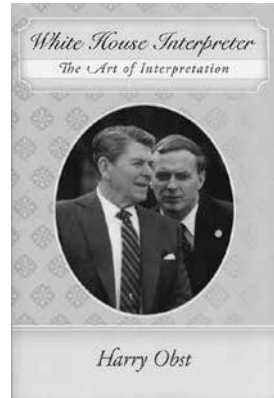
ライバルは自分自身です。不屈の精神で目標到達を目指していく人が本物になります。

柴田 バネッサ 清美

Harry Obst 先生からの励ましの言葉

In many areas of human interaction, spoken communications play a very important role. Diplomacy, court hearings, and business negotiations are typical examples. Nothing gets to the core of the matter at hand more quickly and more thoroughly than a face-to-face spoken exchange.

If that exchange is between people speaking different languages, interpreters form the bridge to mutual understanding. That makes reliable interpreters a national treasure for any country and makes interpreting an important and honorable profession.



Behind the waves of thousands of words flowing back and forth in a spoken dialogue hide the meanings the interlocutors are trying to convey to the other side. Speakers have several different groups of words to choose from to convey a meaning. The good interpreter does not get preoccupied with the actual words chosen by the speaker. The interpreter is a detective chasing meanings and uses all available clues to find them, not only the words. Good interpreter training emphasizes the use of all available clues. The training should help the student to develop useful and clearly identifiable meaning symbols for note-taking. It should include frequent memory exercises.

In any profession the road from apprentice to journey man to master is never an easy one. For interpreters it is often an exciting trip with each stage providing new skills and knowledge leading to constantly growing self confidence and success.

Harry Obst

Contents

通訳トレーニングのアプローチ	6
Part I Retention, Reproduction & Note-taking	
Lesson 1 リテンションとリプロダクション	22
Lesson 2 ノート・テイキング	26
Part II Split Attention & Memory Training	
Lesson 3 聞きながら、情報を取り込む	42
Lesson 4 聞きながら、パラフレーズする	51
Lesson 5 聞きながら、書く	63
Lesson 6 動画を見ながらまとめて、ノートする	72
Lesson 7 聞きながら、まとめて、ノートする	79
Lesson 8 聞きながら、まとめて、ノートする2	92
Lesson 9 聞きながら、まとめて、ノートする3	99
Lesson 10 聞きながら、話す	109
Lesson 11 即興スピーチとサマライゼーション	120
Lesson 12 サイト・レッスン	136
Lesson 13 インタープリター・プラクティス	146
Appendix Numbers & Acronym	181

通訳トレーニングのアプローチ

長年、通訳者のたまごたちを訓練して実感することがあります。まず、「外国語で会話ができるので通訳ができる」と思っている人たちが非常に多いこと。そして、そのような人たちに実際に1分のスピーチを通訳してもらおうと、往々にして、内容をだらだらと説明しているだけの文が出来上がってきます。これは通訳とは呼べません。

いつから通訳の練習を始めるのか

思い立ったときが始めるとき。ですから、始めるときは「語学が好きだから、これを生かしてプロになろうかな」と思ったときです。このときはまず、訓練の方法を習うことから始めます。自分のレベルにあった、自分の興味を引く素材を使えばいいのです。

英語通訳の講習会を行うとき、日本語で話すと、受講者の中から「すみません、これは英語通訳の講座ですから英語で授業をしていただけませんか」という要望が出てくることがあります。このような発言をする人は、通訳のことを知らない人であるとわかります。通訳はまず、自分の母語で勝負できる人たちです。ですから、まず母語で訓練を始めて、段階を追って、外国語の訓練に移ることが通訳者への早道なのです。

いつから初見で同時通訳の練習を始めるか

本書の通訳トレーニングでは逐次通訳と同時通訳をほぼ並行して行っていますが、同時通訳者を目指す人が、初見の素材で同時通訳の練習をしてもよいと見極められるときがあります。それは逐次通訳を行う素材を勉強していくなかで、準備時間が1時間を切ったときなのです。

基礎知識として押さえておくもの

1. 何を訓練するのか

さて、通訳のトレーニングとは、具体的に何の技能を訓練していくことなのでしょう。学習者のレベルによってトレーニングの組み立て方は違ってきますが、すでに外国語で不自由なく会話ができ、通常の話題についてディスカッ

ションができる人にとっては、スプリット・アテンション（ふたつのことを同時にやる平衡感覚）を磨くことが有効な通訳技能訓練になります。

外国語が話せるのはあたりまえですから、次の段階で強化・発展させるのはいくつかの異作業を並行して行うことができる技能です。

- ・ラジオを聞きながら、勉強する
- ・テレビを見ながら、編み物をする
- ・歌いながら、踊りながら、カスタネットを打ち鳴らす

上記は、同時にふたつ、三つのことを行っている例です。無意識に行っているものもあれば、意識的に訓練してできるようになっていくものもあります。本書の訓練では、スプリット・アテンションを発達させていくことに焦点を当てて練習を積んでいきます。通訳技能については意識的に訓練して、スプリット・アテンションが第二の天性として習慣化するくらいまで習得していきます。

そして、さらに、訳出力の「軸」を構築していきます。通訳の「軸」とは、① 語彙力、② 即時に理解し、分析し、わかりやすく表現する力、③ 価値判断、④ 話の流れにおいてコアになる概念の塊、⑤ +α（ガッツ）なのです。

2. どのように訓練するのか

一般的に、通訳者のクライアントとはその日に初めて会った人といえるでしょう。そこで初めて聞く内容を通訳することになります。ですから、まったく同じスピーチを訳出することはほとんどありません。

この現状を考えると、真剣勝負の業務においてどのようなテーマやトピックが扱われたとしても、一応の対処ができるようになることが通常のトレーニングの目標となります。言い換えると、どのようなスピーチでも最低6割から7割の捕捉ができ、聞いている人を待たせず、正確で、わかりやすい訳出が行えるようになることです。

初級レベルの技能訓練は、速やかにメイン・アイデアを押さえる練習から始め、次にスピーチ課題文の要約を作成し、実際の通訳演習に移ります。これを待った無しの実技演習として行い、つなぎの言葉やタイミングやニュアンスなど、通訳のコツを体得します。

中級レベルの技能訓練は、課題文を音読することから始めます。少なくとも10回は読み、スピーカーが話す内容をインプットし、知らない語句や表現を調べ、自分でも論旨を変えずに同様のスピーチができるようになれば、第一段階はクリアです。

日頃からアメリカのニュースに興味を持ち、ホワイトハウス関係の文書を視訳（サイト・トランスレーション 以下サイトラ）し、好きなスピーカーを選んで、その人物の発信する英語を数ヵ月追跡していくという勉強法も有効です。

通訳練習としては、これもひとつの素材に対して 10 回は練習を重ね、最終的には同時通訳で完全に捕捉できるようにしていきます。仕上げは、パフォーマンスを誰かに聞いてもらい、評価してもらうこと。通訳トレーニングにはこれが大切です。

下のブログでは、ミッシング・ワードの練習やトレーニングを始めるにあたり注意すべきことが書かれています。

http://blog.livedoor.jp/vanessa/archives/cat_921624.html

http://blog.livedoor.jp/vanessa/archives/cat_50012150.html

3. 目標とする訳出捕捉率

通訳トレーニングを紹介するにあたって、本書が目標として提示する訳出捕捉率は 7 割です。

Goal

訳出は捕捉率 7 割、同時通訳では 160 ± 20wpm のスピーチを 15 分継続して通訳でき、逐次通訳では 7 分の素材を聞き、5 分程度にまとめて訳出できるようになること。

4. ウィスパリング同時通訳の熟達度

Level 1 : 120wpm ± 20 で読まれたスピーチを初見で 60% 訳出できる

Level 2 : 140wpm ± 20 で読まれたスピーチを初見で 60% 訳出できる

Level 3 : 160wpm-190wpm で読まれたスピーチを初見で 70% 訳出できる

Level 4 : 160wpm-190wpm で読まれたスピーチを初見で 80% 訳出できる

(1) プロ A 級

EU に所属している通訳官たちが、EU の会議に出席する外交官たちにアンケートをとり、通訳者の訳出が何割程度だったら満足できるものと見なすかを聞いたことがありました。その結果、7 割を訳出できていればよいというものが最も多く見られた回答でした。そこで、本書ではその見解に基づき、「どのようなテーマの素材に対しても、7 割の訳出」を目標とします。

さらに、国際的な通訳者採用試験の合格ラインである「同時通訳が 10 分

継続してでき、逐次通訳は7分の素材を聞き、5分程度にまとめて訳出できる」ことが、プロA級がクリアしなければならない条件になります。

また、アメリカでは、ハイ・レジスターと分類される、専門性の高い、ビジネス、医療、司法用語などが含まれた数枚の書類のサイトラ（10分ほど）を試験に含むことが多々あります。

公共サービスへのアクセスを保証するようなコミュニティー通訳の場合は、対話型の意思疎通のために通訳することが多く、「正確、完全、編集しない」ことが基本となっています。

(2) プロウィスパリング通訳

どのようなテーマの素材に対しても6割の訳出を基準とし、さらに、日本で一般的な通訳者採用試験の合格ラインである「同時通訳が1分継続してでき、逐次通訳は3分の素材を聞き、捕捉率6割以上で3分以下にまとめて訳出」できることが求められています。

5. 逐次・ウィスパリング同時通訳試験とその評価ポイント

ここで紹介するのは、通訳案内士の団体である新日本通訳案内士協会／日本文化体験交流塾／True Japan Schoolの通訳技術講習およびビジネス通訳講習の終了時に行われた、逐次とウィスパリング同時通訳の試験結果から得られた考察です。

日英オール・レンダリング試験の評価ポイント (60～70%に要約通訳した場合)

- ① 正確さおよび忠実性
情報密度の高いものを短い文にしてわかりやすいものにできているか。意図するものが伝達できるか。
- ② わかりやすさ
訳は「簡潔なわかりやすい訳出」と言えるか検討。余分なものを削除しているか。情報を圧縮しているか。
- ③ 即訳
スピーカーが話し終わった瞬間に訳出を開始できるか。
- ④ スムーズな再編成
日本語らしさを保ち、内容が変わらないように気をつけながら再編成しているか。

英文の構造に捉われず自然な日本語で話しているか。接続詞を使用して短い文章をつないでいるか。つじつまを合わせられているか。

⑤ デリバリー（声とレジスター）

聞いている聴衆に対して適切な言葉を使用しているか。関連した事項を統合し情報を圧縮し、再構成してスピーカーの発話時間を超えないで訳出できているか。

6. 実際の通訳審査における試験官の採点上の留意点

実際に行われた新日本通訳案内士協会の通訳技能審査会で使用された音声素材を利用して、採点のポイントと評価法を提示します。

(1) 初級（コミュニティー通訳レベル）英日 逐次通訳【筆記による紙面での通訳】

【試験内容】

一般的な内容のスピーチを1分間き、その続きの1分をノートし、1分程度以内に日本語訳を記述する。

【採点のポイント・評価法】

- ① 全般的に論理展開に沿って正しく聞き取れ、適切な日本語に訳しているか。
- ② 捕捉率7割の合格ラインを勘案しつつ、抜けている個所（センテンス）の量や内容をチェックし、採点をする。数字は大きなものは出さないで、ノートが取れて訳しているかもポイント。
例：平均して、8～10文ほどの日本語の訳文（英文素材1分ほどの音声）になる場合、ひとつ置きくらいに文を落としていれば5割程度の出来具合となる。
- ③ 勝手にストーリーを作ってつじつま合わせをしている個所、表現が適切でない箇所なども下線を引いてチェックし、全体的に見直してアウトプットをしたものを評価する。
- ④ ③の問題点は全部一体化して現れることが多いので留意しつつ、受験者の訳出答案が、通訳された日本語として聴衆が理解できるに足るものかを考え、最終判断を二人の審査委員が相談をしながら採点。

(2) 初級（コミュニティー通訳レベル）日英 逐次通訳【面接形式】

【試験内容】

一般的な内容のスピーチを1分間き、その続き1分をノートし、1分程度以内に口頭で英語に訳す。

【採点のポイント・評価法】

① 即時の訳出

ノートを取り終えて、ほぼ2秒以内に始めること。ただ、慣れていない受験者が、いったん「始めます」などの宣言をして始めたものについて厳しい見方はしない。初級検定では、出初めまで5秒くらいは及第とする。それ（10秒くらい）以上過ぎて始めた通訳については、訳出までの時間がかかり過ぎと認識される。

② 正しい発音で発話をしているか

thの音やイントネーションの位置が正しいか（あまりに多くの発音などの間違いは減点）。またandを「アンドウー」、sheを「シーイ」といったように日本語の母音が付け加えられた部分が多いと減点。

③ フルーエンシーと訳出スピード

1分の内容なら1分程度で通訳も終わること（試験官一人が計測）。聞きやすい、一定の速度で訳出できているか。訳出を要求されていない部分を通訳してしまい、訳出時間が伸びてしまっている場合は減点。

④ 文法

文法の間違いがいないか。

⑤ 内容（正確性、忠実性、自然さ、明瞭さ、訳出率）

1. 言い直しがしないこと。
2. 適切な表現、語を選んでいるか。
3. 内容、論理の展開が原発言のとおり正確に理解し、訳せているか（作り話をしていないか）。
4. 長い日本語の文を英文にする際、的確な短文を複数重ねてなんとか切り抜けるなどの工夫をし、もしくは、やや長めでも要を得た構造で処理できているか。
5. 逐次通訳が要約通訳になっている場合は減点。
6. 逐次通訳が大まかな流れのみを訳出するアドホック通訳になっている場合は、プロのレベルには達していないと判断。

⑥ レンダリング

適切な音量、発声でのデリバリーができているか（内容が正確でも聞こえない箇所がある、語尾があまりにぼやけるなどは減点の対象となる）。フィラー（「えー」「あー」などのつなぎの言葉）が多すぎる場合も減点。gonna, wanna, you know, I meanなどの使用、連発も減点になる模様。上記が複合的に表れると結果として不正確、冗長な訳になることが多い。

(3) 中級（ビジネス通訳レベル）英日 ウィスパリング同通

【試験内容】

素材は初級試験の音声の続きから1分。同じスピーカーの同じ話であることで慣れた状況が受験者に提供できるため。一人の試験官が1.5メートルほどの距離で受験者と向かい合う位置に、もう一人が受験生の前、すなわちウィスパリングをしてもらう位置に座り近くで聞く。ゆえに実際は、ささやきというより同時通訳に近い感じ。

【採点のポイント・評価法】

① 内容（正確性と忠実性）

誰でも聞き取れる数字などを正確に訳出できているか、慌てずに適切な用語（最良ものでなくともよい）で、くまなく最後まで日本語に訳せているか。忠実性の観点からは、スピーカーがどのような話し方、語彙を使っているかを考慮して、レジスターを変えるのが望ましい（例：大人には大人、子どもには子どもの話し方）。

② レンダリング

語尾が聞こえないが、通訳できていると確認できたものや、あまりに英語どおりに語を並べているものでも、つながりができ意味が理解できれば、ぎりぎり合格となる。

③ 訳出率（捕捉率）

抜けた量を考え、出来具合を判断し、点数化する。40%分を明らかに落としてしまっている場合、不合格。

(4) 考察

初級、中級試験をかなりいい点で合格しても、案件によっては難しいことは多々あり、不慮のことも現場ではあるので、日々、ノートを取る練習、適正速度で訳す練習、慣れた題材で同時通訳する練習、紙面上で英→日のサイトラ演習、正しい語彙作り、どのような状況でも正しい文法力を発揮できるための練習をすることが肝要だと思われる。

特に中級では、スプリット・アテンションを強化しながら、文章が長くても、メイン・アイデアをまとめる技術を磨くことが求められる。

プロとしては、聞き手を待たせないで訳出を開始しなければならないので、内容をいかに短く言うかを念頭に置き、聞きながら常に訳出案をまとめていくトレーニングが必要。信頼性を落とさないためには、初見同時通訳でも、心もとなさを隠し、何事にも動じない心構えを持つことが大切である。

(5) 音声例

下線を採点のポイントとした。



Remarks by President Barack Obama (Prague, April 5, 2009)

Thank you so much. Thank you for this wonderful welcome. Thank you to the people of Prague. Thank you to the people of the Czech Republic. (Applause.) Today, I'm proud to stand here with you in the middle of this great city, in the center of Europe. (Applause.) And, to paraphrase one of my predecessors, I am also proud to be the man who brought Michelle Obama to Prague. (Applause.)

To Mr. President, Mr. Prime Minister, to all the dignitaries who are here, thank you for your extraordinary hospitality. And to the people of the Czech Republic, thank you for your friendship to the United States. (Applause.)

I've learned over many years to appreciate the good company and the good humor of the Czech people in my hometown of Chicago. (Applause.) Behind me is a statue of a hero of the Czech people—Tomas Masaryk. (Applause.) In 1918, after America had pledged its support for Czech independence, Masaryk spoke to a crowd in Chicago that was estimated to be over 100,000. I don't think I can match his record—(laughter)—but I am honored to follow his footsteps from Chicago to Prague. (Applause.)

For over a thousand years, Prague has set itself apart from any other city in any other place. You've known war and peace. You've seen empires rise and fall. You've led revolutions in the arts and science, in politics and in poetry. Through it all, the people of Prague have insisted on pursuing their own path, and defining their own destiny. And this city—this Golden City which is both ancient and youthful—stands as a living monument to your unconquerable spirit.

When I was born, the world was divided, and our nations were faced with very different circumstances. Few people would have predicted that someone like me would one day become the President of the United States. (Applause.) Few people would have predicted that an American President would one day be permitted to speak to an audience like this in Prague. (Applause.) Few would have imagined that the Czech Republic would become a free nation, a member of NATO, a leader of a united Europe. Those ideas would have been dismissed as dreams.

We are here today because enough people ignored the voices who told them that the world could not change.

We're here today because of the courage of those who stood up and took risks to say that freedom is a right for all people, no matter what side of a wall they live on, and no matter what they look like.

We are here today because of the Prague Spring—because the simple and principled pursuit of liberty and opportunity shamed those who relied on the power of tanks and arms to put down the will of a people.

出典：Remarks By President Barack Obama In Prague As Delivered (the *WHITE HOUSE* PRESIDENT BARACK OBAMA)
<https://obamawhitehouse.archives.gov/the-press-office/remarks-president-barack-obama-prague-delivered>

7. 危機管理の考え方

訳語が思い浮かばない場合は、そのままカタカナ語として処理し、わかったときに再処理します。また、内容が詳細過ぎて通訳がしにくい場合、話を一般化したり、上位概念に置き換えてつじつまが合うようにします。時にはスピーカーが何を話しているかを説明することも可能です。ジョークを話している場合は、「ここはジョークです」と状況説明できます。例えを挙げて話している場合、「ここは会社のストラクチャーを機関車に例えて話しています。各部署とコーディネーションが重要だという内容です。機械の部品などの説明が済んだら通訳を再開いたします」と伝えるのも有効です。

忠実性

通訳者の訳は正確でなくてはなりません。勝手に話を創作したり、意に染まないからといって省略することは許されません。これが「正確性」だとすると「忠実性」とは何でしょうか。

数年前のこと、ミャンマーからある国立大学の学長が来日し、通訳をすることになりました。ちょうど時は、アウンサンスーチー氏が長い自宅軟禁から解かれ、国内の宥和機運が高まり、国は政治、経済、教育の立て直しを促進しようとする頃でした。学長はかつての教育省副大臣として、切々とこう言われました。「ミャンマーの教育を立て直すには日本の政府、大学の力が必要なのです。どうぞお力をお貸してください。」静かですが、とても熱がこもった3分ほどの発言だったと記憶しています。その熱意までもしっかり伝えたいと興奮したことを覚えています。そして、今、通訳の「忠実性」という言葉を目にするたびにこのときのことを思い出すのです。

8. 通訳倫理を考える

通訳者は常に人と人、国と国を繋ぐ仕事をしているわけですから、中立な立場を取り、国際的な倫理規範をベースに活動をするべきです。しかし、国によってはその国家の利益のために活動しなければならないと定めているところもあり、現在、通訳者の倫理規定は、各々の国や所属団体の定めるものによってさまざまなものがあります。次に挙げるのは、通訳案内士の団体の倫理規定です。

通訳倫理規定（例）

第1条【通訳倫理規定】

法令または法令に基づく規則に定めがある場合を除き、本倫理規定は、通訳案内士が通訳を業として行う場合に適用され、この場合における通訳案内士を通訳人という。

ただし、通訳案内士が観光その他の事項の説明において、自己の知識や意見として、外国人に発言する場合は、本規定は、適用されない。

第2条【正確性と忠実性】

通訳人は、正確かつ忠実な通訳に努めなければならない。

とりわけ、司法通訳人および医療通訳士としての活動する場合、通訳人は、述べられたことについて、修正、割愛、付加をしてはならない。

第3条【守秘義務】

通訳人は、権利で保護されている情報その他秘密としなければならない情報の秘匿性を守らなければならない。

仕事上知り得た情報を不正に利用してはならない。

第4条【意見表明の制限】

通訳人は、通訳のみに従事しなければならない。通訳人の業務遂行中、通訳または翻訳と異なる役務を構成すると解釈される活動に関与してはならない。

第5条【業務遂行に関するアセスメント】

通訳人は、常に自己の役務を提供する能力に関するアセスメントを行わなければならない。通訳人が自己の任務を完全に充足する上で妨げとなる事情がある場合、顧客及び関係者に右事情を直ちに告知しなければならない。

内容の専門性、外国人の話速やなまり、スピーチの長さなどにより、自己の通訳能力を超えられる場合は、その旨を伝えなければならない。

第6条【公正】

通訳人は、公正であり偏見をもってはならない。また、偏見があると受けとめられる行動も慎まなければならない。

第7条【資格等の完全開示】

通訳人は、通訳案内士の資格・日本文化体験交流塾等での研修訓練、修了認定書その他関連する経歴を開示するものとする。

第8条【通訳人】

通訳人は、通訳産業に対する信頼性を損なわない態度で振る舞わなければならない。また、またできるだけ妨げとならないようにしなければならない。

通訳人は同業者と協調性を保つものとする。

通訳人として活動するときは、自分があくまで仲介者であることを明確に表明するものとする。

第9条【専門性の向上】

通訳人は、自己の技能、知識を不断に向上させなければならない。また、専門的な訓練と教育、他の通訳人および関連領域の専門家との交流などの活動を通じて、職務の発展を促さなければならない。

正確な通訳ができるように、可能な限り事前調査に努めるものとする。

第10条【礼儀とふるまい】

通訳案内士による通訳は、訪日外国人に異なる文化を伝えるため、適切な語彙を選択しなければならない。また、お客様に不快感を与えることのないよう、礼儀正しくふるまう。

第11条【通訳業務の基本理念】

通訳人としての人称は、あくまで一人称の「私」を用いる。また、対話の相手方には二人称の「あなた」を用いる。

自分が誤訳したとわかったら、すみやかにそれを表明するものとする。

クライアントに代わって、その意思を伝えるときは、クライアントに寄りそう位置又はその後ろに立って、訳出するものとする。

通訳人は通訳業務に適した施設、環境、状況を得よう努力する。

第12条【補足】

言葉の表面上の意味にとどまらず、話し手が何を言いたいのか、話し手の意図を文脈に沿って解釈するように、努めること。

観光通訳にあたっては、話者の言ったことの意味を正確に理解し、的確に相手に伝えなければならない。

日本文化の影響による偏った価値観や固定観念に基づいた誤解をしないように努めること。

通訳人は、お客様と店舗等の間で利益相反が現にあり、またはその見込みがある場合には、これを開示しなければならない。

専門家の説明が外国人にきちんと伝わるように、工夫して分かりやすい表現を用いること。

発言が聞き取れなかったり、分からなかったりした場合は、それを明確にするように求めること。

通訳人が外国人とおしゃべりをはじめ、通訳される日本人が会話の外におかれることがないように心得る。

通訳人は媒介者であり、第三の当事者になってはならない。つまり、「会話の三角形」を作らないこと。

専門家の説明を外国人が良くわからなかった場合、通訳人が専門家に代わって自分で答えるのではなく、あくまで媒介者に徹して質問を専門家に渡さなければならない。

良い通訳人は、透明人間である。

トレーニングに入る前に知っておくこと

英語のスピーチを聞くとき、難しさを覚える原因として、いくつかのことが考えられます。「話し手の話す速度が非常に速い」、「話し手の訛りがとてもきつい」、または「自分がその分野に通じていないため、使われている言葉が専門的でよくわからない」。おそらくはこの三つが主な原因として挙げられるのではないのでしょうか。

ところが、「すべて聞こえ（はず）る」、「用語も頭を抱えるほどには難しくなく意味の見当はつく」、「スピードも速くはない」にも関わらず、何かもやもやとしてしっかり把握できないこともあります。

クリスティーヌ・ラガルド氏によるスピーチを聞いた後、何人かの方から「もちろん、概ね理解はできる。でも、なんとなくはっきりしないところや文によっては何を言っているのかがよくつかめないところがある。英語はきれいで明瞭、全部聞こえる。なのに、なぜ？」という感想が出ました。

理解できる感想です。しかし、通訳の場合、なんとなくわかるという理解力では仕事にならないため、その原因を探ってみることが必要になります。

【原因1】 経済動向、昨今の世界の動きによく出てくる語句、表現に（あまり）慣れていない。以下のような言葉を習得しておく必要があります。

ビジネスでよく使われる動詞	
pick up	勢いなどを増す
boost	促進する
reinvigorate	再活性化する
fuel	促進する
mitigate	和らげる
経済、外交そのほかでも頻出する形容詞またはその派生語	
equitable	公平な
sustainable	持続可能な
resilient	弾力性があり強靱な
inclusive	包摂的な
three-pronged	三叉の→三つから成る
経済の中でも特に景気に関わる名詞	
momentum	弾み、勢い
uptick	上昇、増加、景気の上向き
green shoots	復活、景気回復の兆し
現在、開発関連でよく使われる言葉	
high-quality infrastructure	質の高いインフラ

また、スピーカーが好む言葉にも留意しましょう。

【原因 2】文自体は平易だが、比喻表現のため、しっかりとは掴めない。

The world economy seems comfortable in the gentle spring sunlight of apt and reasonable policies.

【原因 3】言葉、節や句をどんどん重ねて付け足して長くなる傾向があり、ただなんとなく聞いているときにはだいたいはわかるが、細かく捉えようとするときぼやけてきて難しい。

It is a remarkable uptick from 2015, which was just at 2.9 percent, which is a very beaming fact.

関係代名詞の継続用法がふたつ重なっていることから、「え？どこの説明？」と一瞬迷います。

では、どうしたら抵抗を覚えずに内容を掴み、ひいては通訳までもっていくことができるのでしょうか。まず、原因 1 については、必要な語句を覚え、馴染めばいいのみ。では、原因 2, 3 に屈せず、内容を正確に素早く把握するためには？その答えはこの後にご紹介するトレーニングにあります。

細かく頭から文を切って読み進めていくサイトラや、段落ごとに、どうしても必要な部分だけにアンダーラインを引き、内容を $\frac{1}{3}$ 程度にまとめ、特に話し手が言いたいことを即時把握する練習などがこの場合は有効です。

それでは、いよいよ、これからトレーニングに入っていきます。

海外の通訳倫理規定 オーストラリアの例

オーストラリアには、翻訳者と通訳者の資格を標準化し認定する唯一の国家機関があります。1977年に設立された NAATI (National Accreditation Authority for Translators and Interpreters) です。この機関のプロ通訳者認定試験に合格するためには語学のほか、倫理の試験があり、以下のような問題が出題されます。

「あなたは翻訳会社から連絡をもらい、あるアジア系の大手旅行会社に通訳サービスを提供することを引き受け、数日後、その仕事を行いました。そのとき、先方の旅行会社側はあなたの仕事の出来に非常に満足し、あなた個人の名刺を要望してきました。その後、その会社からあなたに直接連絡があり、その子会社で通訳をしてほしいと高額な謝礼を提示してきました。また、今後も引き続き通訳業務を担当してほしいという旨が伝えられました。このような場合、最初にあなたをその旅行会社に派遣した翻訳会社に対してどうしますか。さらに、もし、この時、ある公共施設で次の月から半年間、週2回、通訳サービスを提供するという契約を交わしていた場合、どうしますか。」

通訳倫理の問題として、オーストラリア翻訳者・通訳者協会 (AUSIT) の規範規定では「雇用」についての項目が設けられており、フリーの立場であろうとエージェントに雇われていようと、この倫理規約を守るべきであるとされています。また、エージェントの方針と倫理規約の内容が食い違うときは、協会の倫理規約に従うようにと記載されています。

その規定の補則に、上記のような場合は、まず翻訳会社に相談するべきであり、原則として、派遣先から直接仕事を請負うことは避けるべきだとされています。まず、求められたとき個人の名刺も出すべきでは無いとも記載されています。異なったふたつのところで仕事を請負うことは可能ですが、相手先のそれぞれについて同じように責任を負うことになるので、利益相反の事態が起こらないようにしなければならないのはもちろんのことです。

Part I

Retention, Reproduction & Note-taking

リテンション，リプロダクション，ノート・テイキング



Lesson 1 リテンションとリプロダクション

リテンション (retention)

リテンションとは、短い記憶 (short-term memory) です。それは、通訳者が「スピーチ内容を聞き、それを通訳し終えるまでの記憶」であり、通訳が終わってしまえば覚えている必要のないものです。

リテイン (記憶を保持) すべきものは話の「核」となる部分ですが、それらがどのようにつながりをもって展開していくかにも注目する必要があります。したがって、接続詞、時制にも留意することになります。

また、セキュリティ上の理由から、メモ用紙や筆記用具の持ち込み不可という場合には、リテンションをフル回転して通訳しなくてはならないことがあります。自分の指などに、項目をひとつずつ対応させる苦肉の策もありますが、これにもリテンションが必要ですし、また、堂々と人前で指を折り曲げたりなどはなかなかできません。やはり、とにもかくにも頭の中でのリテンション力をたくましくすることが求められるのです。

課題 1 ある会議での冒頭挨拶



【英→日 リテンション】

音声を聞き、内容を覚えて、日本語で大まかに説明してください。初めはスクリプトを見ても構いません。また、難しく感じるようであれば、見ながら行ってください。慣れたら本を閉じて行いましょう。

It is a great honor to hold this conference to discuss sustainable development goals, and we are graced with the presence of His Holiness Pope Benedict, as well as Her Royal Highness Princess Alexandra and many participants from all over the world. On behalf of the organizers, I would like to express our profound gratitude to all those who have provided their support to bring about this conference.

ベネディクト教皇殿下、アレキサンドラ殿下のご臨席を仰ぎ、内外から多数のご出席を得て、持続可能な開発目標についての会議を開催できますことは、誠に光栄であり、主催者を代表して会議開催にご尽力賜った関係各位に感謝申し上げます。

課題 2 レッツ暗記！

次に挙げる表現や敬称は絶対に知っておくべきものです。覚えましょう。

Your guess is as good as mine.	あなたがわからないことは私にもわからない。
on second thought have second thoughts think twice	考え直す
think better of it	そうしないほうが賢明だと思う、考え直してやめる
give ... a rain check	延期する、またの機会にする
conversely	逆に言えば
to put it the other way around	裏を返すと
to/toward this end	この目的で
His/Her/Your Imperial Highness The Crown Prince	(日本の) 皇太子殿下
His/Her/Your Excellency +フルネーム His/Her Excellency Baron +フルネーム The Ambassador of 国名 The Honorable +フルネーム	~閣下
His Excellency, (Mr.) Barack H. Obama, the 44th President of the United States	アメリカ合衆国第44代大統領 バラクオバマ閣下
H.E. Ambassador Extraordinary and Plenipotentiary John Smith of 国名 to Japan and Mrs. John Smith	~国特命全権大使ジョン・スミス 閣下ご夫妻
His/Her/Your Majesty	陛下
His/Her/Your Eminence	げいか 猊下
His/Her/Your Serenity	殿下
Lord Mayor of London	ロンドン市長

リプロダクション (reproduction)

リプロダクションとは、記憶した内容を内容を変えずに再生することです。内容が同じなら、違った言い回しを使うことができます。

課題 3 オーストラリアの空港での日本人旅行者と検疫官の会話

【英→英、日→日 リプロダクション】

次の会話を読み、英語は英語で、日本語は日本語で大まかに再生してください。初めはスクリプトを見ながらでも構いません。慣れたら本を閉じて行いましょう。

Q : Quarantine officer, J : Japanese

Q: Please put your bags here and open them.

J: 何で開ける必要があるのですか？ どういうことですか？

Q: This is a quarantine inspection. Put them up here and unlock them, will you?
What's in this bag?

J: 汚れた衣類入れです。それからこっちには洗面用具が入っています。全部開けるのですか？

Q: Yes, please. We want to go through your luggage. You have been visiting Thailand. Did you visit any farms?

J: いえ、行っていません。首都に住んでいる親戚の家に泊っていました。

Q: I see. What's in this case?

J: それは、バイオリンのケースで、妹へのお土産の太鼓が入っています。

Q: I see. Did you put all these paper packets of tea around the drum in the case?

J: いえ、叔母が詰めたのだと思います。妹が緑茶好きだと知っているのを禁止されているのを知らなかったのでしょうか。

Q: You cannot bring in any loose plants into Australia. In fact, you could be fined, but this time we'll just confiscate it.

Vocabulary QR ①



a piece of baggage	鞆ひとつ
a baggage claim	手荷物受取所
a baggage tag	タグ, 荷札
a claim tag	手荷物預かり証
check one's baggage	手荷物を預ける
comply with immigration regulation	入管法に従う

Q: 検疫官, J: 日本人

Q: その荷物をこちらにおいて、中身を見せてください。

J: Why do I need to do that? What's the matter?

Q: 検疫検査をします。ここに載せて鍵を開けてください。このカバンの中は何が入っているのですか？

J: That's a dirty clothes bag, and that's got toiletries in it. Do you want me to open them?

Q: そのとおりです。全部の荷物を検査します。タイに旅行していますね。どこか農場に行きましたか？

J: No, we didn't visit any farms. We just stayed in the capital with my relatives.

Q: なるほど。このケースには何が入っているのですか？

J: That's a violin case. There's a drum, a souvenir for my sister.

Q: なるほど。紙製のティーパックが太鼓の周りにありますが、あなたが詰められたのですか？

J: No, my aunt must have placed them there. She knows my sister loves green tea. She didn't realize it's not permitted.

Q: このような植物性物品はオーストラリアへ持ち込めません。本来なら、罰金が課されますが、今回は没収にとどめておきます。